

習い事でのハラスメント防止を ひとりの「困った」が国会質問に

神奈川・磯子支部

いま、小中学生の半数以上が放課後、学習塾以外の「習い事」をしています。しかし、そこで起きるトラブルは民間契約を理由に自己責任にされがちです。一人の保護者からの相談をきっかけにはじまった新婦人のアンケート調査が、「習い事」で起きている人権侵害を問う国会質問になりました。

泣き寝入りしたくない

「子どもがダンススクールの指導者から暴言や暴力、排除のハラスメントを受けている」。当事者の子どもも保護者、Tさんが磯子支部に相談したのは昨年の夏。心身ともに傷つき、目の前で苦しむ子どもの訴えを行政や警察に相談しても親身になってくれるところはなく、唯一返事



「アンケートにご協力を」と宣伝。上大岡駅前、磯子支部

をくれた地元国会議員の畑野君枝さん(共産・現衆議院議員)から

新婦人を紹介されたことがきっかけでした。Tさんの話を聞いた支部と県本部は「そんな人権侵害に黙ってられない。ほかにも子どもへのハラスメントがないか調べて、省庁にも訴えよう」と、11月にオンラインアンケートを呼びかけると、30件以上のスポーツ系や音楽系、学習塾などでの指導者からのハラスメントの実態が明らかになりました。Tさんは新婦人に入会して、昨年の12月、3次世代国会行動」に参加

アンケートの声で迫る

その後も県や支部がアンケートで集めた声は59件になり、「死ぬと言われる」「卑猥な言葉の乱用」など被害の実態が記され、「相談する場がなかった」との回答が61%にのぼりました。アンケート

結果をヒヤリングした吉良よし子参議院議員(共産)が4月20日のことも特別委員会、習い事で起きるハラスメントについて質問。救済・再発防止の取り組みや枠組みづくりを国の責任で進めるよう求めました。こども家庭庁、法務省、文科省の担当者が参考人として出席するなか、吉良議員はTさんの事例をはじめアンケートに集まったハラスメント被害者の声を紹介しながら質問。これを受け、黄川田仁志こども政策担当大臣は「子どもの貴重な居場所である習い事の場で、人権侵害を受けることは決して許されな

みんなはひとりのために

この国会質問を、Tさんは支部や県本部の会員と一緒に傍聴しました。吉良議員の質問中も涙が止まらなかったTさんは傍聴後に、「ひとりではなかなか届かない声を新婦人のみんなと国会に届けることができました。質問に取り上げられて一石投じることができた」と話します。職場から駆けつけて傍聴した会員も、「すべての子どもが暴力にさらされないために何とかしたかった。今回関わったことがうれしい」と話す表情が晴れやかでした。

主張

全国で高市政権の改憲策動に危機感を持ち、「いてもたってもいられない」と立ち上がった女性たちの行動が急速にひろがっています。新婦人と次世代の女性たちの新しいつながりや出会いも各地で生まれるなか、6月10日(水)に次世代国会行動にとりくみます。今回は、「戦争とめる

「憲法まもる!」とつながった 女性を次世代国会行動へ

岐阜・美濃加茂支部では新婦人のスタンディングに参加した40代の女性が「選択的夫婦別姓を訴える国会に行きたい」と入会。北海道本部は札幌市内でのペンライト集会に集まった約1000人に向

いた30代の女性が3月に入会。その後、次世代の会員たちと国会行動チームを立ち上げて事前準備を進めています。この間の世論調査では、「改憲」を最優先課題だと考える有権者は1%、憲法9条を変えないほうがいいと回答する人は60%を超えています。今回の国会行動は改憲勢力にこの声をきつけ、私たちの声と行動には社会を変える力があると次世代が直接体験するまたとない機会です。この間出合い、つながった次世代の女性たちを会員に迎え、全都道府県からの参加をめざしましょう。



参議院こども特別委員会、質問する吉良よし子参議院議員(4月20日)

元中央委員 中嶋丘子さん死去
新日本婦人の会元中央委員の中嶋丘子(たかこ)さんが4月17日に死去しました。84歳でした。中嶋さんは、新婦人青森県本部創立時から活動に参加し、県本部事務局長、会長を歴任。1980年、97年まで中央委員を務めました。

〈月1回〉



あの日から15年

浪江町民 門馬昌子

東京電力福島第一原発事故
原発事故で福島・浪江町から東京に避難して3年目、2014年の夏。新宿駅の地下道を歩いていたら写真が何枚も展示され、見ると浪江町の町並みだった。絶対に帰れないと思っていた、浪江の懐かしい店ばかり。見ているうちに涙がこぼれてきた。「どうしたんですか」と一人の男性に声をかけられ、「これは私の町なんです」と答えた。それが写真を撮ったフォトグラフアーの中筋純さんだった。一番にぎやかだった新町通りの商店街はほとんど更地になり、どんな店があつたかも思い出せない。中筋さんの写真は、もう見ることのない浪江の町を伝えている。

言いようのない寂しさ

それと空き家が3軒あり、他は更地になった。さらに、ふるさと浪江がなくなる言いようのない寂しさを感じたのは、学校の解体だ。事故前には3つの中学校と6つの小学校があつたが、2021年から7つの小中学校がいつせいに閉校し、校舎が解体されることに。2020年夏に学校の見学会があつたが、コロナ禍で参加できない町民も多かった。浪江町民と出身者の5人で「各校の見学会と正式な閉校式を行うまで解体を延期してほしい」と3915人分の署名を集め、20年12月議会に副町長と町議会議員長に請願を提出したが、否決された。せめて放射線量の低い浪江小学校を残して、一教室ごとに各学校の卒業アルバムや優勝カップを陳列するなどの構想があつたが、古い校舎で地盤が緩いとの理由で解体されてしまった。



浪江の自宅。隣は更地になった

浪江の自宅。隣は更地になった